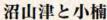


没後 150 年(生誕 210 年)シリーズ (2) 熊本・沼山津の偉人

横并小桶





修復される前の四時軒

小楠は、城下相撲町(現在の下通1丁目10番付近)の小楠堂 から、安政2年(1855)に沼山津に居を構えました。当時の沼山津は、竹林に囲まれた農家が点 在する寒村でしたが、居宅からの眺めは素晴らしく、四季折々の風景を楽しむことができまし た。佐賀備前藩の田中虎六郎が書いた『四時軒記』の中で「春夏秋冬四時の景具はりて、乃ち尽 く吾が一軒の内に望せり」と絶賛し、小楠自ら「四時軒」(四時=四季)と命名しました。この頃、 雅号も「沼山」とも称しています。

《親しみやすかった横井小楠》

お百姓さんが夕暮れ仕事を終えて、馬に乗り鼻歌を歌いながら家に帰る途中、小楠に会いま した。お百姓さんが驚いて、すぐ馬から飛び降りて土下座をしようとするのを「そのまま。その まま。」と押しとめて、こころよくながめて通らせました。当時は、お百姓さんが馬に乗ること は許されず、もし、乗ろうものなら、武士のまねをして身のほどをしらない者としてすごい罰 があったので、この小楠の態度には、お百姓さんから非常にありがたがられ「横井の殿さんの ようなお方はいない。」と言われました。

小楠は、田植え歌を聞くといつも「あれは、歌ではない。お百姓さんは、つらいから泣いてい るのだ。」と言いました。また、生活に困っているお百姓さんがいると自分の家計が豊かでない のに、お金を貸してあげました。

小楠は、村人にいつも「これからの世の中は、人間すべてならし(平等)になる。今は、お侍、お 百姓、町人などと段がつけてあるが、これはなくなるですばい。」と言いました。この、ならし (平等)の言葉は村中に広がったということです。

ある朝、近所に住む人が小楠を喜ばせようと思って、大きくきれいな朝顔の鉢を持ってきた そうです。小楠はすぐ起き上がり、お礼に一句さらさらと書いて渡しました。

「朝顔の 花が見たくて 起きにけり」 小楠

- ※沼山津…江戸時代は、沼山津村、のちに上益城郡秋津村となり、昭和29年に熊本市に合併。現在、熊本市東 区沼山津。
- ※次回は、「越前藩『松平春嶽』と小楠」について紹介します。
- ※秋津公民館では、小楠に関する講演会を来年1月まで毎月開催する予定です。

文責 横井小楠記念館長 中島 勝則 (秋津公民館 2096-365-5750)